

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No.30

発行
日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日
平成24年4月30日

福岡県連盟春日第1団より

被災地・宮城県連盟に義援金とスカウト用品の寄贈



4月1日（日）宮城県庁ロビーでの緑の募金開始式の前に、90名のスカウトが集まった中、福岡県連盟春日第1団のベンチャースカウト、植田和宏君・矢野壮馬君・江藤晃一君の3名が、東日本大震災で被災した我が宮城県連盟に自分達で募金した義援金とスカウト用品（帽子・Tシャツ・ユニホーム）の目録がスカウト代表から芳賀理事長に手渡されました。

本当にありがとうございました。

ベンチャー3名は、29日（木）仙台空港着、30日（金）菅野プログラム委員長の車で世界文化遺産である平泉の中尊寺・毛越

寺・後藤新平記念館（ボーイスカウト日本連盟初代総長）等を見学し、夜は仙台地区のベンチャースカウトの交流会に参加。31日（土）被災地の七ヶ浜町において震災ボランティア活動（側溝の泥土除去作業）を行いました。4月1日、県庁ロビーにて、前述の目録贈呈を行い、午後、松島を見学して、長距離バスにて福岡に帰りました。

日本ボーイスカウト宮城県連盟御中

三指 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の大震災から早くも一年が過ぎましたが、被災地はまだ大変なご様子であり、一刻も早い復興が望まれております。私たちも被災地支援として「今私たちにできる災害援助を行っていこう」ということで「募金活動とスカウト用品（中古を含む）の収集を行い、宮城県連盟の被災地スカウトの支援に役立てて頂こう」ということになりました。

つきましては、3月末頃にベンチャースカウト3名（春日第1団所属）が貴地区を訪問して義援金とスカウト用品を一部持参しますのでよろしくお願いいたします。

また、スカウト達は七ヶ浜町災害ボランティアセンターの奉仕活動も短い時間ですが体験すべく計画を立てて訪問いたしますどうかこの趣旨をお汲み取り頂きお役に立てて頂ければと存じます。

なお、寄付内容につきましては同封の目録に記入いたしました。スカウト用品等につきましては、別便にて送らせていただきました。

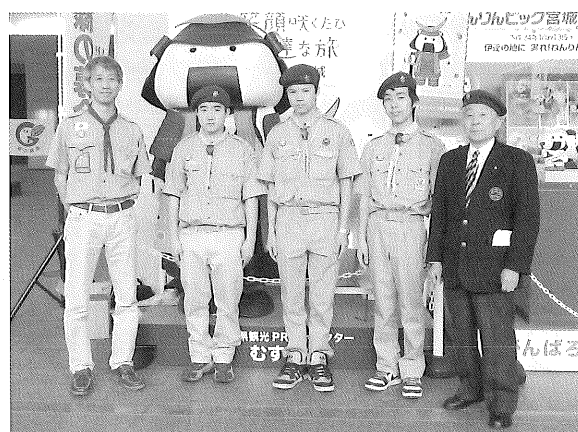
以上、よろしくお願いいたしますと共に、日本ボーイスカウト宮城県連盟の益々のご発展を祈念申し上げます。

弥栄

平成24年3月21日

日本ボーイスカウト春日第1団

団委員長 城戸国弘



「ベンチャープロジェクト発表会」報告

宮城県連盟プログラム委員会 菅野 宏彦

3月18日に宮城県連盟として初めて「ベンチャープロジェクト発表会」を開催しました。開催の目的は、富士章を取得したスカウトの称賛と、他団の発表を聞くことで自分達の活動のヒントにしてもらうこと。そして今時のベンチャースカウトは元気がないという声を耳にしますが、実はこんな素晴らしいプロジェクトを展開していることを、指導者、保護者の方々に知ってもらうことです。

発表では、ベンチャー富士章を取得した2名の富士スカウトから、富士章を取得するまでどのように進捗に取り組んだかと言う報告と、そしてこれから富士章を目指す後輩スカウトに「大事なことは計画を立てて取り組むこと。誰でも富士スカウトになれる」とメッセージを頂きました。また県連盟より代表として参加したスカウトより「日韓スカウトフォーラム」「北海道東北ブロックフォーラム」の報告、そして各団や地区のベンチャー活動の事例を発表して頂きました。発表を見に来

てくれた新高校1年生のスカウトは、「先輩達の発表を聞いてこれからの活動のヒントになった。頑張って富士章に挑戦したい」と力強く抱負を語ってくれました。これからますます県内のベンチャースカウトが活発にプロジェクトを展開されるよう期待致します。



B-Pスピリッツ（B-P祭）

仙台第41団カブ隊長 吉田 庸子

私たち仙台第41団は、若林区の遠見塚古墳公園で活動しています。今年度のB-P祭は、2月26日に団行事として開催しました。

2月の活動テーマを「B-Pスピリッツ」として、19日には各隊で事前の準備を行いました。ビーバー隊はなぞなぞの準備として大きな紙にイラストで問題を描きました。

カブ隊は、カブブックの「世界の国々」とチャレンジ章の「国際」の履修を兼ねて、万国旗作りをしてスカウトハウスに飾り、会場準備をしました。ボーイ隊はB-Pの生涯について勉強し、ターゲットバッジのB-Pを取得しました。また、野外ゲームの企画をしました。

そうして迎えた26日当日は、前日の大雪のため、残念ながらボーイ隊が用意した野外ゲームはできませんでしたが、一部プログラムを変更して、室内の活動で行いました。

スカウト達は、紙芝居「B-Pおじさんものがたり」を見て、B-Pの子供時代のエピソードに興味津々で、鋭い観察力、洞察力、探究心に感心した様子でした。また、イス取りゲーム、B-Pクイズ、B-Pのジグソーパズル（手作り）をチーム対抗で行い、お互い白熱した対戦で大いに盛り上がりました。ビーバー隊のなぞ

なぞは、みんな頭をひねって考えました。団で用意していただいた、ドーナツとジュースに舌鼓を打ち、最後には、「B-P最後のメッセージ」をボーイ隊のS君が朗読して、締めくくりました。

約2時間の活動でしたが、様々な遊びを通して、B-Pの生涯について、またボーイスカウト運動の歴史について知ることができました。B-P祭は、B-Pスピリッツ（スカウト精神）を学ぶ貴重な機会です。スカウト活動の原点として、今後も大切な行事にしていきたいと思えます。



冬のプログラムでの達成感

1月28・29日の一泊二日で行われた仙台第1団ビーバー・カブ・ボーイの各隊の冬の訓練。初日は蔵王自然の家を中心に、二日目はえぼしスキー場を主会場とし実施された。参加人数の多さから安全性を考慮し大型バス、マイクロバスそして数台の自家用車での移動とした。

各隊のスカウト、リーダー、奉仕のベンチャー・ローバースカウト及び一部の保護者総勢90数名の大移動の為、活動中は勿論往復の安全を第一に考え当日を迎えた。今回の自然の家の利用団体は偶然にもボーイスカウトが4団体(仙台第28団・塩釜第1団・泉第2団・仙台第1団)とファミリーが1組で有った。この機会を有効に使い各隊ごとに自隊プログラム以外で時間を作り交流を持ち楽しい時間を持てたことも今回の収穫だった。

ビーバー隊、カブ隊は初日、二日目ともスキー訓練、ボーイ隊は初日イグルー作り、二日目はスキー訓練を行った。今年の雪質はスキーには絶好の雪質であったが、イグルー作りには最悪の雪質で雪ブロック作りに悪戦苦闘。初日のスキー訓練は自然の家のゲレンデで基本訓練を行った。イグルー作りの方も各班一基ずつ挑戦し、夕食直前まで作業し何とか完成した。夕食後、ビーバー・カブスカウト達は先輩方の作ったイグルーを見学し狭い入口から入り、何人を入れるか等大はしゃぎのイグルー体験だった。

新雪のゲレンデで各隊のスカウト達は相当体力を消耗したのだろう、就寝後は何時になく早い眠り

仙台第1団 カブ隊長 東海林 隆一

に就いた。

二日目は全員えぼしスキー場へ移動、さすが宮城県屈指のスキー場。絶好のゲレンデコンディションだった。強風が時折初心者のやる気を妨害したが、何とかボーゲンらしき滑りを習得できたようだ。普通に滑走できるスカウト達は、インストラクターや保護者に守られながらリフトに乗り滑り降りてくる雄姿？を見ることができた。2・3年前までは泣きっ面で挑戦していたスカウト達も普通に滑走できている姿を見ると本人はもとより我々も達成感を感じることができ年一回のスキー活動で有るが継続してきて良かったと思った。

今回の活動も蔵王自然の家のスタッフの皆様、スキーインストラクターの方々、協力頂いた保護者の皆様のおかげで無事終了出来たことに感謝し、又来年も続けようと心を新たにしたい。



団の伝統活動スキー訓練

私が所属する仙台第30団の主な冬のプログラムはスキー訓練です。スキーも他のスポーツ同様指導者及びインストラクターの正しい指導によって技術が上達します。シーズンになると月に2回程スキー学校入校の本格的なものを含んだスキー訓練のプログラムが企画されます。よってスカウトは毎年訓練に参加することで自分の技量が上達するのを実感しているのです。

30団がスキー訓練を主として行うのには伝統的な理由があります。若かりし頃の団委員長と副団委員長が自ら正しい指導を受け、お互いにアドバイスし合ってスキーが上達したというエピソードがあります(それでこの程度という噂も・・・)。

私自身ビーバースカウトから仲間達とスキー訓練に参加し、基礎から技術を学ぶことによって技量を高めました。さらに、他隊との合同スキー訓練ではスカウトの交流が行われ、他隊と技術を高め合うことによりお互いの絆を深めています。現在ではこの経験を活かし、インストラクターとし

仙台第30団 インストラクター 菊地 敦史

てボーイ隊やカブ隊の指導をしています。

スキーを基礎から学ぶということは、日頃のスカウト活動にも活かされています。例えば、野外訓練であるキャンプであれば、最初は時間通りに活動することは難しいと思います。しかし回数を重ねる事でテントの設営や炊事活動もスムーズに行えるようになり、自分の時間をつくることができます。この経験は日頃の生活においても自分の時間をつくる大切さを知る良い機会になると思います。

スカウトの中にもスキーが得意やキャンプが得意等、それぞれの個性や得意分野を持っていますので、活動を通してスカウト同士が成長し合いスカウト活動を充実させて欲しいと思います。

私はスカウト活動によって個性を伸ばすことができ、数多くの経験をすることができました。現在は指導者として活動していますが、スカウト達もお互いの個性を伸ばし合い、ボーイスカウト活動を楽しんで頂きたいと思っています。

お き て

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. スカウトは誠実である | 5. スカウトは快活である |
| 2. スカウトは友情にあつい | 6. スカウトは質素である |
| 3. スカウトは礼儀正しい | 7. スカウトは勇敢である |
| 4. スカウトは親切である | 8. スカウトは感謝の心をもつ |

『おきて』は、スカウトが活動を行なう時あるいは生活をする時に行動の物差しとして常に頭に置き、スカウトは『おきて』に近付ける努力をします。ボーイスカウトに入隊して最初は言葉を覚えること、次に意味が言えること、次に行動することが進級によって指針が違ってきていました。難しい言葉を暗記して言うことから始まるので言葉にして言い表すだけでした。言葉の意味を理解し、どうしたら言葉について実行することが出来るか、『ちかい』の最初に出てくる言葉は『神（仏）と国とに誠をつくしおきてを守ります』と自ら唱えているので、『おきて』をスカウト活動の中、普段の日常生活の中、地域社会の中、『おきて』が全て行動する時の尺度となります。以前、昭和38年に「青少年全国交換大会」が埼玉県川口市で行なわれ、宮城県代表としてボーイスカウトから参加した際に思ったことは、参加団体の中にボーイスカウトと同じ服装をした団体「健民少年団」が港町中心に作られ、神戸、横浜などから参加されていました。ボーイスカウトにはスカウト手帳があり『ちかい』『おきて』が書いてあります。これと同じように健民少年団も手帳を持ちその中に12のおきてがボーイスカウトと同じように書かれていました。その当時、健民少年団は目的教育方針は違ってもボーイスカウトのコピーではないかと疑ったものでした。健民少年団も青少年の教育で、少年の教育のためには『おきて』が必要と考えられ、ボーイスカウトの『おきて』が基になって出来たと思われまふ。

ボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエル卿は、ボーイスカウトの『おきて』の重要性を考え、イギリスのボーイズブリゲードやアメリカインディアン少年のおきて、日本の白虎隊の武士道などを参考に『12のおきて』が作られました。日本のボーイスカウトの『おきて』はベーデン・パウエル卿の『おきて』を翻訳して日本に合った言葉で作られましたが、古い言葉で現在に添わなくなってきました。言葉が難しければ理解することが難しくなり、実行に移ることが難しくなります。スカウトの行動の物差しとしての役割が果たせなくなり、ちかいの「おきてを守ります」が実行不可能になってしまうことにつながるため、思い切って『12のおきて』を『8つのおきて』に変更されました。

ボーイスカウトのおきては『ちかい』の「神へのつとめ」「たへのつとめ」「自分へのつとめ」の三つのつとめから構成されています。スカウトは誠実である、友情に厚い、礼儀正しい、親切である、快活である、質素である、勇敢である、感謝の心をもつ、と言う言葉でボーイスカウト活動の物差しとなっております。スカウトは何時、どんな所でもスカウト活動の物差しである『おきて』を比較対象にして行動を行い、スカウトのプライドをもって、スカウトらしさを発揮いたします。『ボーイスカウトに入っていると違うね』と周囲から言われています。このことは前に述べたようにスカウト自ら「おきてを守り」スカウトらしさを発揮しているからです。ボーイスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウト、指導者は『ちかい』を唱え、『おきて』を守って実践し、「行なうことによって学」ことで身に付き人格が形成され、社会に役立つ大人を作りあげることになります。『おきて』にはビーバースカウト、カブスカウトの幼年期に合った簡単な言葉で『きまり』『さだめ』として、小さな子供でも分かりやすくしたものになっています。

ボーイスカウトは、幼年期にビーバースカウトに入隊し、成人するまでの長いスカウト活動で『きまり』から『おきて』までつながったものが、スカウト活動の中、地域社会の中、日常生活の中で実践されてゆきます。

ビーバー隊のきまり

1. ビーバースカウトは げんきにおあそびます
2. ビーバースカウトは ものをたいせつにします
3. ビーバースカウトは よいことをします

カブ隊のさだめ

1. カブスカウトは すなおであります
2. カブスカウトは 自分のことを自分でします
3. カブスカウトは たがいに助け合います
4. カブスカウトは おさないものをいたわります
5. カブスカウトは すすんでよいことをします

『仲間を増やそう運動』

ボーイスカウト宮城県連盟 組織拡張広報委員会

ボーイスカウト宮城県連盟は、ボーイスカウトの『仲間を増やそう運動』を展開しています。
一緒にスカウト活動をする仲間を増やしましょう。

ボーイスカウトは

○ボーイスカウトは、幼年期のビーバースカウトから入れます。

○青年のローバースカウトまでスカウト活動に参加できます。

○ボーイスカウトは、人を育てる運動です。

○スポーツと違って結果がすぐに生まれません。

○ボーイスカウトは、人格、技能、健康、奉仕から活動が形成されています。

○幼年期のビーバースカウトから青年のローバースカウトまでそれぞれの年齢にあったスカウト教育により行われます。

○ボーイスカウト活動の主体は野外活動です。

○ボーイスカウトは、自ら行うことを学びます。

○人に役立つ技能、自分に役立つ技能を身につけます。

○他の人を助け、奉仕の心を養います。

○ボースカウトは、年齢にあったどの部門からでも活動に参加できます。

○ビーバースカウトは、仲間と一緒に遊ぶことから始まります。

○カブスカウトは、異年齢でグループを作り、お互い助け合って活動します。

○カブスカウトからボーイスカウトに上進して、多くのスカウト技能を身につけます。

○ベンチャースカウトは、身につけた技能を生かして冒険にチャレンジします。

○ローバースカウトは、技能や教養を生かして地域社会に奉仕をします。

○成人は、ボーイスカウト運動の推進者としてスカウト教育の指導にあたります。

○スカウト教育は、多くの大人の指導の下に行われます。

○成人指導者の訓練が専門のトレーニングチームにより行われます。

ボーイスカウトは、仲間を増やしたスカウトを表彰する制度があります。仲間に入れたスカウトに団からご褒美に『友情バッジ』（三本の指を立てたスカウトサインの形）が授与されます。『友情バッジ』はスカウトのためのバッジで、一人の仲間を入れて『銅色バッジ』、三人の仲間を入れて『銀色バッジ』、五人の仲間を入れて『金色バッジ』が授与されます。『友情バッジ』は、部門に関係なくスカウトの活動期間中胸に付けることが出来ます。隊の仲間を増やし、団の人数を増やし、スカウト運動への参加者を増やすことにより組織を拡大することが出来ます。

『友情バッジ』を胸に着けながら宮城県連盟のスカウト人口をふやしましょう。

スカウトの仲間を増やし、スカウト活動を活発にしましょう。

『仲間を増やそう運動』を展開しています。

第4回北海道・東北ブロックキャンポリー参加

大会期間：2012年7月30日（月）～8月2日（木）

会場：山形県坊平高原

宮城県連盟派遣団編成

派遣団長：千田好男（副連盟長）

副派遣団長兼輸送責任者：村上佳司（特別委員長）

参加隊等管理兼総務担当：横澤繁（特別副委員長）

被災地資料展示担当兼会計：色川新治（石巻地区事務長）

派遣隊：第1隊・第2隊（仙台地区）、第3隊（東部地区）、第4隊（石巻地区）

第5隊（県北・仙南地区）

日韓スカウト交流プログラムに参加して

仙台第1団ベンチャースカウト隊 和田 悠佑

こんにちは、仙台第1団ベンチャー隊、和田悠佑です。

初めに、簡単に自己紹介をしたいと思います。

現在、自分は東北学院高校3年生で、ボーイスカウト活動はビーバー隊から入隊して12年目となります。

今回の日韓スカウト交流プログラムに参加した主な志望動機は、「全国規模のスカウトフォーラムに参加してみたい！」という好奇心と他の国のスカウトと交流し国際理解を深めたいという気持ちからでした。

さて、ここからは一番気になる内容について書こうと思います。

そもそも、日韓スカウト交流プログラムとはどういったものか？と言う疑問が出てくると思います。

日韓スカウト交流プログラムは日本、韓国の中高生年代のスカウトが、「より良き世界明るい未来」をテーマとし、その事について自分達が今できる事は何かと、さらにそれについてのアクションプランを作成し、日韓両国で互いの意見交換をします。

自分は「日本、韓国の中高生の一日の生活の違い」について話し合いました。

(プログラム中の公用語は英語でした・・・)
その話し合いの中で自分達とは似ているけど違う、生活の仕方について知ることができました。

このプログラムでは意見交換だけではなく、韓国隊との楽しい交流時間も多く設けられています。

自分は韓国人の友達ことができました、また英語が苦手なスカウトが中にはいるでしょうが、大丈夫です！

各グループに通訳の方が入り韓国人の多くの友達を作ることができます、ただし英語が得意なグループには通訳が入りません、ちなみに自分のグループには通訳の方が入りませんでした。しかしながら、通訳の方が居なくて幸運だったと思います。

何故かというのは、是非あなたも参加してみて自分で感じてみて下さい、きっとその答えが分かる筈です。



北海道・東北ブロックベンチャースカウト集会に参加して

名取第1団ベンチャースカウト隊 大石沙枝

3月23日から25日に行われた「北海道・東北ブロックベンチャースカウト集会」に宮城県連盟として参加してきました。

私が今回の集会に参加した理由は前回のブロックフォーラム以来、あまり自分の意見を発信できずにいたので、この集会で発言を増やしたいと思ったからでした。

岩手の会場に着いてからは開会式やアイスブレイキングなどをしてから、実際津波の被害を受けた人や、その後どのようなボランティア活動をしたのかを聞きました。2日目は朝からバスに乗り、釜石市で防災課の方からのお話、大槌町でかげやまさんからのお話、山田町で牡蠣をいただき、養殖のお手伝いをさせてもらい宮古市経由で帰りました。その後何を感じたか振り返り、まとめました。最終日の3日目はグループごとに発表して解散しました。

今回の集会で学んだ事は「自分は大丈夫だろう」と過信しすぎないでいれば助かる人はもう少し多かったかもしれないということです。そして今回の発言を増やしたいと言う目標も達成できとても良い機会となりました。次もこういう機会があれば参加したいです。

「表敬訪問に参加して」

泉第2団 ベンチャースカウト隊 工藤 知宏

私は23年度富士章を取得しました。そして富士章を取得したことで4月3、4日に東宮御所へ表敬訪問に行けることになりました。東宮御所はもう二度と行けないような所ですのでとてもいい経験ができました。3日はグループのコミュニケーションや4日のリハーサルを行いました。私は今まで他の団とはあまり関わってなかったので今回いろんな県や団の話を聞けて良かったです。特にプログラムの中の「一分間で自己紹介」や「五分間でこれからやりたいこと」について発表するのは少し大変でしたが、とても楽しく、これからも役に立つことなのでとてもいい経験になりました。

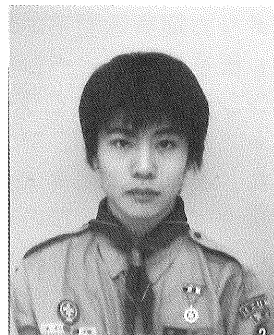
4日は東宮御所へ表敬訪問に行きました。一人ひとり皇太子様に声をかけていただきました。30分ですべてのプログラムが終わる予定でしたので一言ずつかと思っていたのですが、一人ひとりに話す時間が長くていろいろ話すことができました。

今回の経験はとても貴重な経験ですので、これからの活動にも活かしていきたいと思います。

平成14年度 カブスカウト入隊

平成16年度 ボーイ隊へ上進

平成20年度 ベンチャー隊へ上進



ボーイスカウト日本連盟創立90周年

平成24年4月13日、ボーイスカウト日本連盟は創立90年を迎えました。

この創立90周年を全国のスカウト・指導者全員で祝うとともに、これまでのスカウト運動を振り返り、新公益法人の目的を再認識し、隊・団の発展充実を図るためにも、90周年の平成24年を「ホップ」の年、第23回世界スカウトジャンボリー（23WSJ）日本開催成功を目指す平成27年を「ステップ」の年、来たるべく100周年を迎える平成34年を「ジャンプ」の年として飛躍する年に位置づけていきます。

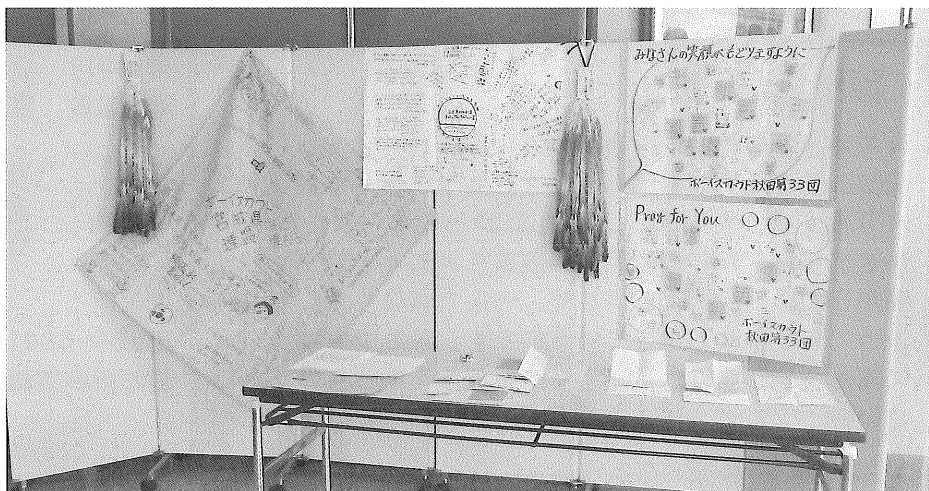


テーマ：SCOUTING, value for life!～スカウティングで素晴らしい人生を～

90周年を記念して、社会やスカウトたちに伝えたいことをテーマとしました。これは、日本連盟と同じく90周年を迎える韓国スカウト連盟とも共通のテーマです。

頑張ろう宮城県連盟！

各県連盟・団から励ましのメッセージをいただきました。ありがとうございました。



石巻第2団へアメリカより義援金が贈呈される！

石巻第2団団委員長 菊池 康博

去る3月31日石巻市蛇田公民館に於いて、アメリカ連盟バージニア964団よりの災害義援金の贈呈式が行われました。

当日は、釜石市でのボランティア活動の帰路、アメリカ極東連盟日本地区会長「ダグ・ハイマス」氏を代表に、ベンチャー隊長「エリック・フランシス」氏そしてリーダー「長野」氏とスカウト2名の5名が、アメリカ側代表として出席され、石巻第2団育成会長「三浦真一郎」に、義援金 4000 米ドルの小切手の目録が贈呈されました。

今回の義援金は、964団が毎年実施している「模型電車のショー」の収益金で、今年のテーマは「日本の電車」で、入場者が多く収益金が多かったそうで「東日本大震災」で多くの被害を受けた日本のボーイスカウトに贈ることになった様です。

この話が、石巻に開設された日本連盟ボランティアベースに奉仕に来られた極東連盟東京地区理事長「コリン・ヤーカー」氏より当県連「佐



藤理事」に伝えられ、佐藤理事より「あなたの団が津浪で全ての資材を流失された様なので義援金を受けたら如何ですか？」との話があり、有り難くお受けすることになった次第です。

ヤーカー氏と話し合いの結果、贈呈を依頼された極東連盟としても、贈呈を証明する写真が必要とのことで「31日に『ダグ・ハイマス』が石巻を通過するので、それに併せて贈呈式をして欲しい」というのが、今回の贈呈式実施のいきさつです。当団としては長く形として残すため、エコ・テント3張りを購入、寄贈団名を記名して大切に使用させて頂くつもりです。

尚、現地に於いても「藤崎駐米大使」を招待しての贈呈式が行われ、藤崎大使が日本のボーイスカウトを代表して受領された写真も送られてきております。

バージニアの団（スカウト）では、英語を勉強している日本のスカウトと、Eメール又はインターネット「フェースブック」のフレンドとして交歓したいそうで、交歓してみたい人はまずベンチャー隊長「エリック・フランシス」さんのEメールアドレス [emf_scout@ybb.ne.jp] へアクセスして聞いてみて下さい。



編集後記

今年は寒さのせいで一週間以上も遅れて咲きました。福島 of 三春に千年桜があり、樹齢千年以上たち支え木により長く張った枝を支えられながら今年もまた桜を咲かせました。千年もの間多くの支え木によって支えられ咲かせているのも人と同じで、一人ではなく多くの人によって支えられて生きているのです。スカウトは他の人に支えられ、他の人を支えていることを忘れないでください。（組織拡張広報委員長 大久保 記）

■ 発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟
■ 編集 宮城県連盟

組織拡張広報委員会

委員長 大久保 晃男

副委員長 柿沼 富雄

委員 幸田 行広 大沼 茂雄

松本 康男 磯坂 隆

小野寺 純

〒985-0841

宮城県多賀城市鶴ヶ谷1丁目4番1号

宮城県多賀城分庁舎内

TEL 022-355-6265/FAX 022-355-6267